

(実践報告)

統合実習における学生の学びと今後の課題

岩崎淳子¹⁾ 武藤英理¹⁾ 則武 翔¹⁾

I. はじめに

看護基礎教育の充実に関する検討会報告書(2007 厚生労働省)では、「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する内容とし、目的としては、卒業後、臨床現場にスムーズに適応することができると示されている。2019年の看護基礎教育検討会報告書においては、チーム医療の一層の推進が重要であることから、多職種連携について学び、臨床判断を行うための基礎的能力を養い、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶことを追記している。しかし、2019年度入学生は、2019年12月より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行し、基礎看護学実習および各領域実習に影響を及ぼした。

今回、統合実習を履修した学生は、基礎実習および領域実習を臨地で実施することができず、学内実習に変更となった学生が多い状況であった。臨地実習経験が少ないことにより、学生からは、就職することに対する不安な声も聴かれていた。

そこで本研究においては、このように臨地での実習経験が少ない学生が、統合実習を実施した成果について報告する。

II. 研究方法

1) 調査対象者

2022年度統合実習終了した看護学生89名とした。

2) 調査内容

実習目標を基に、看護管理の役割と病棟管理、各メンバーの役割、メンバーの一員として実践できた、他職種連携における看護師の役割についての4項目を4件法で尋ね「1よくできた」とし「4できなかった」とした。統合実習での学び・感じたこと・考えたことについては自由記述とした。

3) 分析方法

質問項目については単純集計を行った。

記述内容については、KH coder Ver.3^{注1)}を利用し、テキストマイニング法を行うことで、データ中の頻出語を抽出し、上位頻出語の関連、および共起ネットワークによる頻出語の関係性を分析した。分析をする際には、単独では意味をなさない構成要素(助詞や副詞)を除外した。「看護師」、「優先順位」、「新人看護師」、「報連相」、「重要性」、「看護管理」、「必要性」、「タイムマネジメント」、「リアリティショック」、「看護チーム」、「チームメンバー」、「専門性」、「看護師像」、「看護実践」の14語は強制抽出する語として指定した。

4) 倫理的配慮

統合実習終了後、対象となる学生が揃う場で、研究目的、匿名性の厳守、成績への影響が生じないこと、自由意志であることを口頭および書面にて説明した。レポートに記入されている同意・同意しないのどちらかにチェックし、提出は留め置きボックスとした。

1) 朝日大学保健医療学部看護学科

Ⅲ. 統合実習の概要

1) 実習の目的・目標

実習の目的としては、「これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、実務に近い体制の看護を通して、医療チームの一員としての役割遂行を目指した看護実践能力を高める。また、今後の目標や課題を明らかにする。」とした。この目的を達成するための目標とし3項目掲げた。1 看護管理者の役割と病棟管理の実際を理解できる。2 看護におけるチームメンバーおよびリーダーの役割を理解し、メンバーシップを発揮できる。3 多職種連携における看護師の役割について理解できるとした。

2) 実習方法

(1) 事前学修

1. 看護管理の3つのレベルとヘルスケアの関係について、2. 看護管理の要素について、3. 医療機関の組織構造、4. 看護部の組織図、5. 看護管理プロセス、6. 看護業務基準、7. 専門職連携・協働について、8. 人的資源・モノ・情報管理について、9. 看護提供システムについて、10. 看護師に1日から看護管理の実際が理解できる、の10項目である。

(2) 実習スケジュール (表1)

2週間実習の内1週目はシャドーイングを行い2週目は病院既存の看護計画に沿って実践した。ただし実習病院および病棟により実習方法に関しては実習目標が達成できる範囲内で柔軟に対応した。

表1 実習スケジュール

	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
	学内	臨地	臨地	臨地	学内	臨地	臨地	臨地	学内	学内
内容	全体オリエンテーション/事前学修確認/病棟別オリエンテーション	・病棟師長/チームリーダー/メンバーのシャドーイング ・多職種カンファレンスへの参加			・チーム活動についてのまとめ ・次週の看護活動のミーティング ・記録の整理	・学生でチームを作り看護実践を行う一日のスケジュールリング、リーダーへの報告・連絡・相談 ・PNS+ α 受け持ち患者を担当しながら、パートナー看護師と共に複数患者の看護ケアを見学・実践 ・パートナー看護師と複数患者の看護援助の優先順位を考え調整する *クリニカルパスや実際の看護計画に沿って看護実践をする。			GW 発表準備	発表

Ⅳ. 結果

統合実習履修学生 89 名のうち同意の得られた 81 名を分析の対象とした。有効回答率 91%であった。

1) 実習目標に対する達成度

質問項目①「看護管理の役割と病棟管理」においては95%の学生が「よくできた」と解答している。質問項目②「各メンバーの役割」においても91%の学生が良くできたと解答している。質問項目③「メンバーの一員として実践ができた」では、よくできたが63%、できたが31%で5%の学生があまりでいなかったと解答している。質問項目④「他職種連携における看護師の役割について」では85%の学生が良くできたと解答し15%の学生ができたと回答している。

表2 各質問項目に対する解答数と割合

質問項目	解 答							
	1:よくできた		2:できた		3:あまりできなかった		4:できなかった	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 看護管理の役割と病棟管理について	77	95	4	5	0	0	0	0
2. 各メンバーの役割について	74	91	7	9	0	0	0	0
3. メンバーの一員として実践できたかについて	51	63	25	31	5	6	0	0
4. 他職種連携における看護師の役割について	69	85	12	15	0	0	0	0

n 81

2) 統合実習における学びの分析結果

(1) 単語頻出分析

KH corder による前処理実施の結果、総抽出語数は 2,491 語、異なり語数は 498 語であった。出現回数 5 回以上の語彙を表 3 に示す。

抽出語は上位から順に「学ぶ」、「患者」、「看護」、「大切」、「看護師」、「自分」、「感じる」から、患者を中心とした看護の大切さに関する語が抽出された。その後、「チーム」「考える」「行う」「働く」「安全」「実習」などが続いており、チーム医療を安全に働くことの内容が確認できる。

(2) 共起ネットワーク分析

集計単位を「段落」とし、最小出現数 5、描画数 60 の条件で共起ネットワーク図分析を行った。ネットワーク図は、繋がり強い単語のまとまり（以下、サブグラフとする）で分けられ、単語間の繋がりを示す Jac-card 係数が大きいほど繋がりが大きいこと、円が大きいほど単語の出現頻度が高いことを表す。これにより、出現パターンの似通った語を線で結び、出現語同士の類似性を視覚化することができる。図の作成については、結果の見やすさから、最小スパニング・ツリーだけを描写した（図 1）。

抽出語は 7 つのグループに分類された。

サブグラフ 1 は、「学ぶ」、「患者」、「看護」、「大切」、「行う」、「提供」、「医療」、「職種」の単語の共起で構成されていた。サブグラフ 2 は、「優先順位」、「必要」、「時間」の単語の共起で構成されていた。サブグラフ 3 は、「来年」、「一員」、「働く」の単語の共起で構成されていた。サブグラフ 4 は、「自分」、「働く」、「実習」、「イメージ」、「経験」の単語の共起で構成されていた。サブグラフ 5 は、「安全」、「役割」、「行動」、「報連相」、「守る」、「重要」の単語の共起で構成されていた。サブグラフ 6 は、「看護師」、「考える」の単語の共起で構成されていた。サブグラフ 7 は、「重要性」、「情報」の単語の共起で構成されていた。

表 3 「統合実習による学び」に関する抽出語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
学ぶ	42	医療	7
患者	32	行動	7
看護	22	ケア	6
大切	17	課題	6
看護師	16	管理	6
自分	15	見る	6
感じる	13	持つ	6
チーム	12	守る	6
考える	12	重要	6
行う	12	重要性	6
働く	12	報連相	6
安全	10	来年	6
実習	10	力	6
提供	10	一員	5
必要	10	学べる	5
役割	10	経験	5
時間	8	情報	5
優先順位	8	職種	5
イメージ	7	動く	5

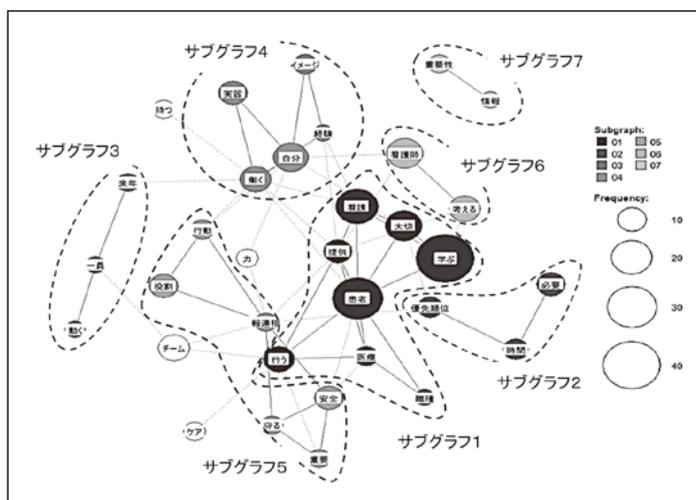


図 1 「統合実習による学び」の共起ネットワーク図

V. 考察

1) 統合実習における学びについて

看護基礎教育の充実に関する検討会報告書では、卒業後、臨床現場にスムーズに適応することを目的としている（厚生労働省 2007）。本研究では統合実習の学びとして「チーム」や「イメージ」などの単語が抽出されており、実習により学生がチームの一員として働くイメージが付いたことで、リアリティショックの軽減や学生が抱いていた就職後の不安の軽減に繋がったと考えられる。共起ネットワーク図においても、「イメージ」という単語は「自分」に結び付きがあることが示された。石井ら（2017）は、臨床の場に近い体験ができたことで、チームで患者に関わるという実感が持て、チームの中で働く自分の姿をイメージできたと述べている。

本研究における統合実習では、シャドーイングを行っており、それまでの1名患者を受け持つ実習内容から、複数の患者のもとに足を運ぶ看護師の姿を具体的にとらえることができる実習内容であった。そのような実習を行ったことで、チームの一員として看護実践でき、限られた時間内に看護するためには患者の状況を観察から臨床判断し優先順位を考えることの重要性が理解できたと考える。また、患者に看護や医療を提供するためには多職種との関わりが大切であることを学べたのではないかと考える。

また、頻出語のなかには「報連相」も含まれ、共起ネットワーク図をみると「チーム」、「役割」、「行動」など、様々な単語と結びつきがあることが示された。今井ら(2017)の研究においても、統合実習における学習成果としてテキストマイニングの解析の結果、報告、連絡、相談の言及頻度高いことが明らかになっている。本研究においても、チーム医療の中で自分の役割を果たすことや報告・連絡・相談を密に行うことにより、患者の安全を守ることにつながるについて学ぶことができたと考えられる。

2) 統合実習の実習目標に対する学びについて

① 看護管理者の役割と病棟管理に実際に理解できる。

95%学生が「よくできた」と評価していることから、事前学修を十分行った上でシャドーイングを行うことにより学修内容を結びつけ、多くの学びを得れたと考える。渡邉ら(2017)は、看護師長のシャドーイング実習では組織運営を円滑にするためのマネジメントと看護ケアの質を保証するためのマネジメントが学べると述べている。

医療に対する安全や組織の中における役割についても学べたのではないかと考える。

② 看護におけるチームメンバーおよびリーダーの役割を理解し、メンバーシップを発揮できる。

各メンバーの役割では91%の学生が良くできたと解答しており、メンバーの一員として実践ができたについては、よくできたが63%であった。この要因としては、実習病院および病棟の機能により、学生のみでチームを組み実践を行った施設や、病棟のチームに入って実践を行った施設があり、実習形態が異なったことによりこのような結果に至ったのではないかと考える。学びを共有することにより、実際できなかったことに対しても学ぶ機会であることを学生へ事前に伝える必要がある。

チームの一員として、また学生でチームを作り実践することにより、看護を行う上での情報共有の大切さや、報告・連絡・相談を行うこと全てが患者のケアの質・安全へとつながることが学べたと考える。

③ 多職種連携における看護師の役割について理解できる。

85%の学生が多職種との連携について看護師は、患者の近い存在であるため、常に患者の思いを尊重し、多職種と情報共有をおこないチーム架け橋となることが看護師の役割となることが学べたのではないかと考える。また継続的な支援を行っていくうえでも多職種との連携が必要であることも学んでいたことが示されていた。

3) 今後の課題

統合実習における目標は達成できたと考えられる。しかし、今後地域包括ケアシステムの充実が重要視されているため、その中で看護師が担う役割について学べるよう検討していく必要がある。

実習終了後の学び共有の目的について説明し、より学びの多い統合実習へとなるよう検討していく必要がある。

VI. 文献

石井あゆみ, 藤田和加子, 徳珍温子 (2019). 看護学生が統合実習で得た自己課題. 人と環境, Vol. 12 : 43-47

厚生労働省 (2019). 看護基礎教育検討会報. https://www.zenhokyo.jp/others/doc/201911-curriculum-kentou_1-1.pdf. 2023-01-10

文部科学省 (2007). 看護基礎教育の充実に関する検討会報告. <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>, 2023-01-10

渡邊真紀, 石田美知, 加藤純子 (2017). 看護師長同行における看護管理実習でのマネジメントに関する学生の学び. 日本看護学会論文集 看護管理, 161-164

注 1) KH coder とは, KH Coder は筆者・樋口耕一が著作権を持つ計量テキスト分析またはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアでアンケートの自由記述・インタビュー記録・新聞記事など, さまざまなテキストの分析に用いられている. KH coder はテキスト型データから語を自動抽出し, 多く出現していた語の確認を行うことや, 語と語の結びつきを探り, 共起ネットワーク図を描写することができる.